

心おきなく
お喋りしてほしい。

「カウンセリングで、クライアントさんが前世に行っても行かなくても、まったく構いません。大切なのは、互いを信頼し合って何かをみつけてもらうことです。私の所には、さまざまな人が真剣な悩みを抱えてやっています。私は、自分の心を開いて相手の話を聞くだけ。私の所に来た方で、前に行った前世療法でカウンセラーに気を使い、じつは前世に行ったふりをしたんだ、と言う人がいます。私の前ではそんな無理をしてほしくないんです」

その後、前世なんて本当にあるんでしょうかね、と言葉を続け、こちらを煙に巻きます。どうも取材を受けるのは好きではない、と彼女が言うのはまんざら嘘ではないようです。小さな頃から、精神世界が好きだったと言う緒方さんは、「子どもらしくない子どもで、可愛気がなかったようです。そんなことを親戚の叔父に言われてショックでした。子どもの頃に言われたことって、意外と覚えていたんです。ですから自分が大人になって、甥や姪と接するようになった今は、言葉に気をつけています」

緒方さんは、前世・未来世療法のほかに、年齢退行療法も行います。ここでは、小さな自分に遡るだけでなく、大人の自分がその場に行つて、小さな自分を応援したりもします。小さな妙ちゃんを、大人になった緒



1970年生まれ。東京都出身。法政大学卒。米国催眠士協会認定ヒプノセラピスト。前世療法の世界的権威である精神科医のプライアン・ワイス博士から直接、プロフェッショナルトレーニングを受ける。

●問い合わせ
Camellia ココロの相談室
<http://www.hypno-camellia.com>
Tel.03-5912-6541

緒方妙子

Ogata Taeko

方さんが後押したのかもかもしれません。また、その時の父や母、弟などになり代わり、父の立場からはどう見えていたのか、なるほど母はこう思っていたのか、とするのです。過去の自分の記憶にいる他者に入つて、その人の心を慮るというのは、もはや

架空の出来事と言いきれると思うのですが、いかがでしょうか。「それでもいいんじゃないですか。そうすることでもう一つの物語が成り立っているのです。それが五次元ではないでしょうか。実際に、カウンセリングの場だけのことなのに、そ

の人自身やまわりの環境が変わっていきます。やはりみんな潜在意識のどこかでつながっているのでしょうか」

緒方さんは、近頃は人間関係が希薄になり、本当の悩みを打ち明ける場を失っている人が多いように見受けられます。私には、思いきり自分のことを喋ってほしい、とマカロンと紅茶をのんびりいただきながらゆっくりとそう話します。

「あるセミナーに参加されていた方が、講師の方がおっしゃっていることを、もうそんなこと知っている、ここに来て損をした、と言っているのを耳にしました。知識のためだけならばたくさん良い本が出ていますし、耳新しいことはそうないでしょう。けれど、実際にカウンセリング

をやられている先生がおっしゃっていることを、果たして実行できているカウンセラーはどれくらいいるのでしょうか。普段の自分の行動と、知っていることを分けて考える人は意外に多いものですし、私の中にもそれがありません。私は、知識を増やすのではなく、自分は果たしてそれができているかどうかをいつも内省して、身につけていこうと思つています。誰でも受け容れて聴くって案外難しいものですね。でも、私はそういうカウンセラーを目指していきません。地道にコツコツが信条です」

マカロン、チョコレート、季節の和菓子。お茶菓子は毎回違うそうですから、緒方さんの所に行かれる時は、茶飲み友達のもとへ行くような心構えでどうぞ。

やはりみんな、 五次元に つながっている。

文：山中伊織

「朝起きて、毎日が楽しい気分を味わってもらいたい」と緒方さん。そんな小さな想いを目の前の一人、また一人とつなげてゆくのを自分のライフワークとすべく決意し、クライアントを迎え入れる。

「そして
未来へ」
前世療法で
つかむ、
魂の在りか。

